

<対策のポイント>

我が国のハウス面積が減少する中で、施設園芸をさらに発展させていくためには、国内外を問わず、これまでに施設園芸の進出していない地域や、生産物のニーズがある地域に進出し、現地生産を行うビジネスモデルを進めることが有効です。また、スマート農業の新規市場の開拓は、将来的な量産化の実現などへの寄与も大きく、積極的に進めていくことが重要です。このため、先駆的な事業者による**スマート技術を含む施設園芸の現地生産の事業化可能性調査を支援し、スマート技術も駆使した施設園芸の開拓を促進**します。

<事業目標>

- これまでに施設園芸の進出していない地域に生産拠点を**持つ企業を年間3社増加**
- 農業の担い手の**ほぼ全てがデータを活用した農業を実践** [令和7年まで]

<事業の内容>

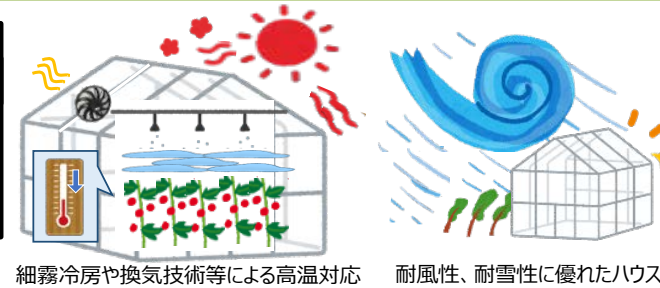
<事業イメージ>

○ スマートグリーンハウス先駆的開拓推進

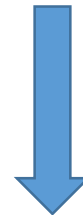
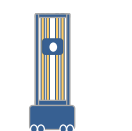
農業者や法人・企業が、国内外を問わず先駆的に進出してスマート技術を含む施設園芸の現地生産に取り組むにあたり、課題となりやすいポイントごとに、**本格的な事業化に先立った事業化可能性調査を支援**することにより、スムーズかつ低リスクな事業化を推進します。

我が国の優れた施設園芸の技術

- ◎ 優れた品質
- ◎ 過酷な高温条件への対応
- ◎ 高い耐候性 等



スマート農業技術の進展



◎ 施設園芸の現地生産、スマート技術の導入における課題の早期発見・解決を支援

- ・事業化可能性調査
- ・スマート技術の改良 等

<事業の流れ>



国内外を問わず、スマート技術も駆使した施設園芸の先駆的開拓を推進